

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2025年4月)

2025年4月11日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

今月の景気判断～横ばい圏で推移している

【今月のポイント】

- 関西経済は、横ばい圏で推移している
- 1月の生産は2ヵ月ぶりに前月比でマイナスとなった。均してみると横ばい圏で推移している
- 2月の実質輸出はアジア向けが伸びたことから2ヵ月ぶりに増加したが、均してみると横ばい圏で推移している
- 賃金指数(大阪1月)は、名目ではプラスが続いているが、実質では2ヵ月ぶりにマイナスとなった
- 小売販売額(2月)は、物価上昇もあって名目では前年比プラスが続いているが、実質では2ヵ月ぶりにマイナスとなり、総じてみれば横ばい圏で推移している

項目	現状
景気全般	横ばい圏で推移している(↓)
生産	横ばい圏で推移している
輸出	横ばい圏で推移している
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	横ばい圏で推移している(↓)
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている

注: () 内は前月からの変化の方向

景気全般は「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

個人消費は「持ち直している」から下方修正(↓)

生産

1月の鉱工業生産(関西)は前月比-3.0%と2カ月ぶりにマイナスとなった。均してみると横ばい圏で推移している。汎用・生産用・業務用機械、輸送機械が増加したが、電子部品・デバイス、化学など多くの業種で減少した。

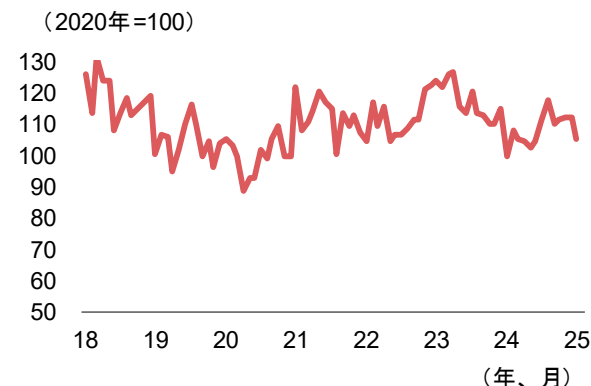
鉱工業生産指数



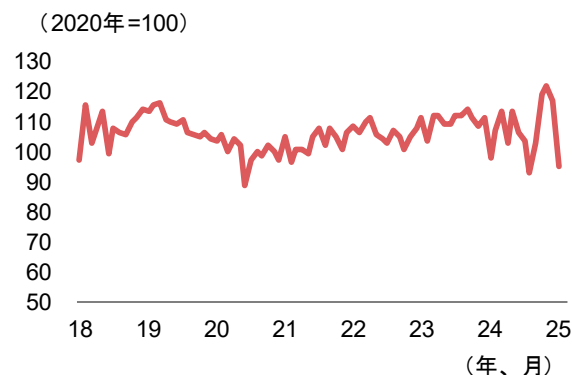
電子部品・デバイス



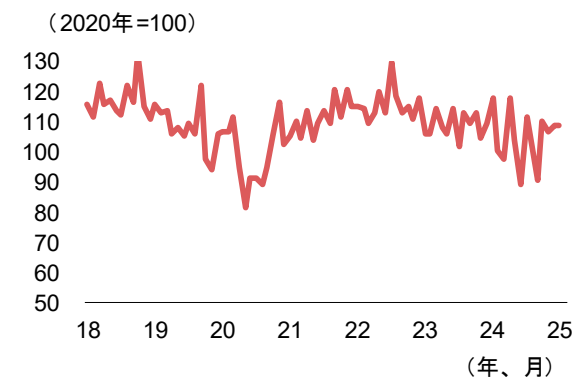
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



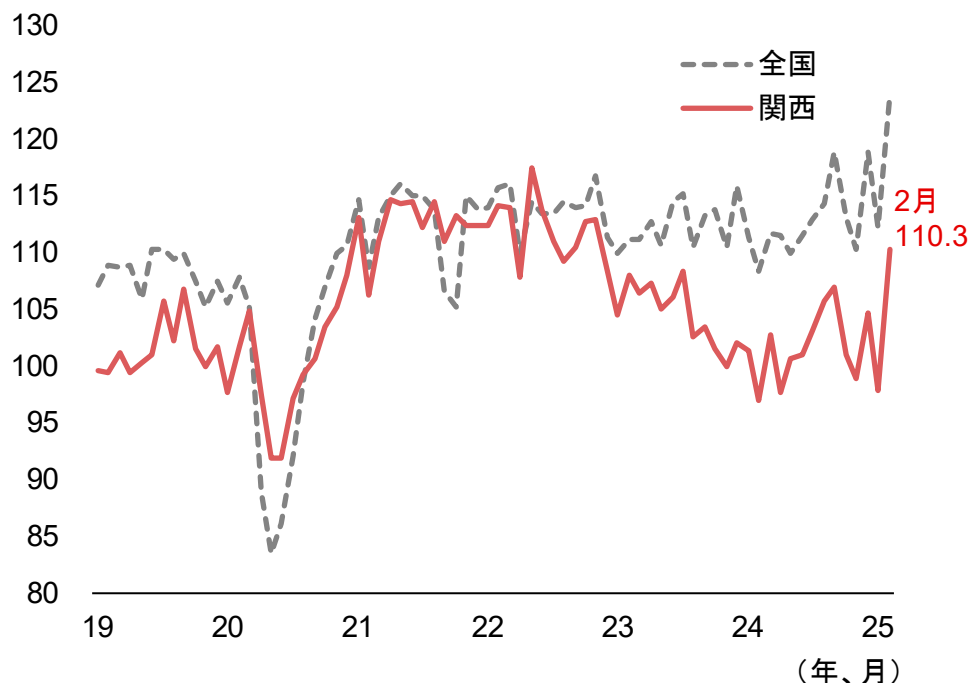
(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

2月の実質輸出(季節調整値)は、アジア向けが大きく伸びたことから前月比+12.6%の110.3と2ヵ月ぶりに増加した。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による2月の輸出数量(季節調整値)も2ヵ月ぶりに増加した。先行きについては、トランプ関税による景気減速から下振れリスクが高まっている。

実質輸出指数(季節調整値)

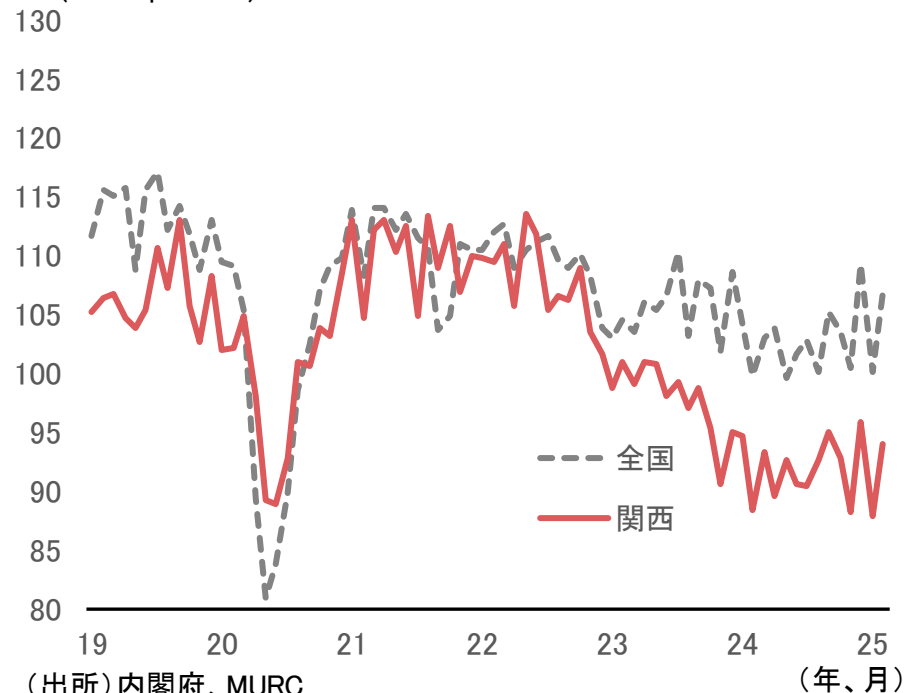
(2020年=100)



(出所) 日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数(季節調整値)

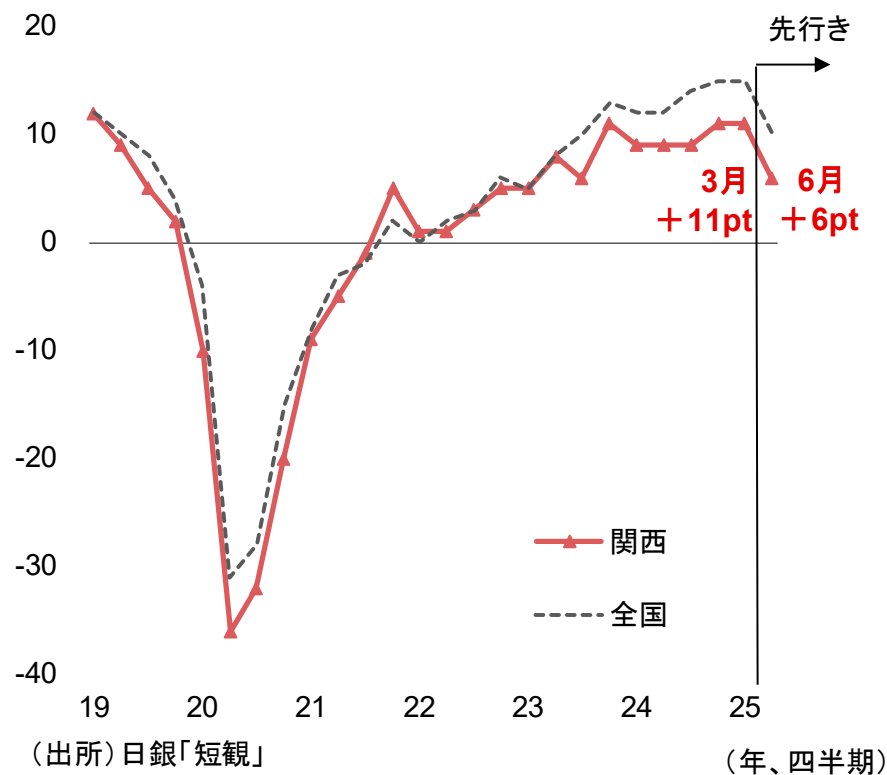
(2020年=100)



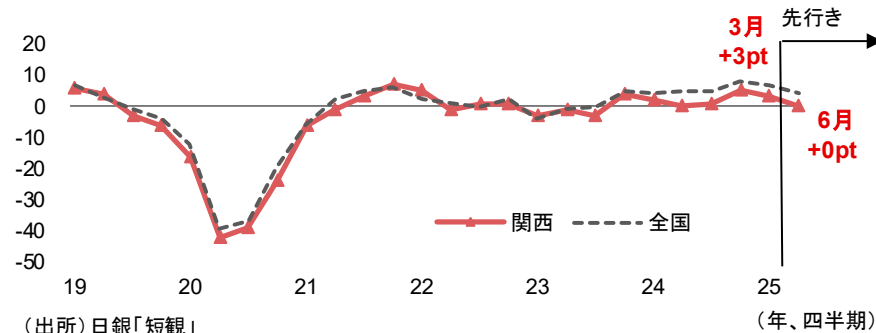
企業景況感(日銀短観)

日銀短観3月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+11ptと12月調査から横ばい。製造業は+3ptと2pt低下、非製造業は+18ptと横ばいとなった。業種別に見ると、製造業では繊維、鉄鋼、輸送用機械が低下。非製造業は小売、情報通信が上昇する一方、建設、宿泊・飲食サービスなどが低下した。先行き(6月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。

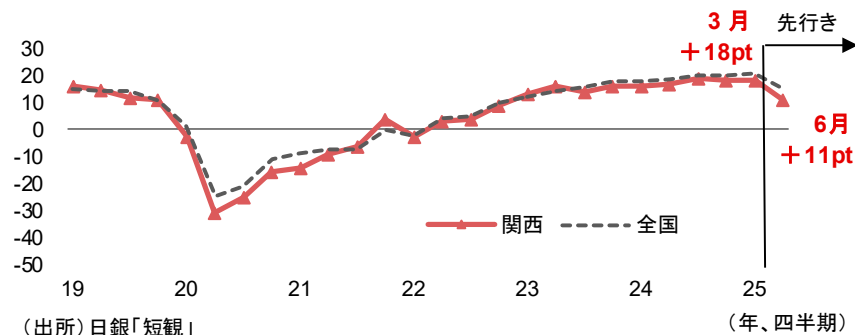
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



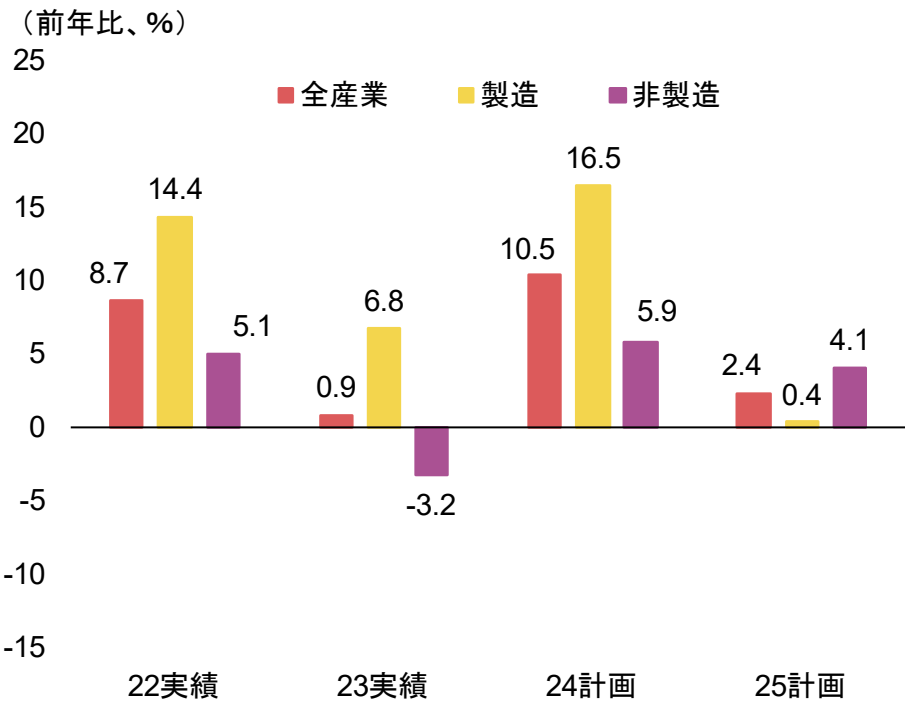
同 非製造業



設備投資

日銀短観3月調査によると、24年度の設備投資は全産業で+10.5%と見込まれている。25年度については、3月調査は通常前年水準と同程度と見込まれる傾向があるが、全産業で+2.4%の計画となっている。業種別では、化学、金属製品、輸送用機械、小売などが前年比増加の計画となっている。

設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

設備投資額(前年比%)

	23年度 実績	24年度計画			25年度 計画
		今回調査	(前回調査との差異)	前回調査	
全産業	0.9	10.5	(-4.4)	14.9	2.4
製造業	6.8	16.5	(-3.8)	20.3	0.4
非製造業	-3.2	5.9	(-4.8)	10.7	4.1

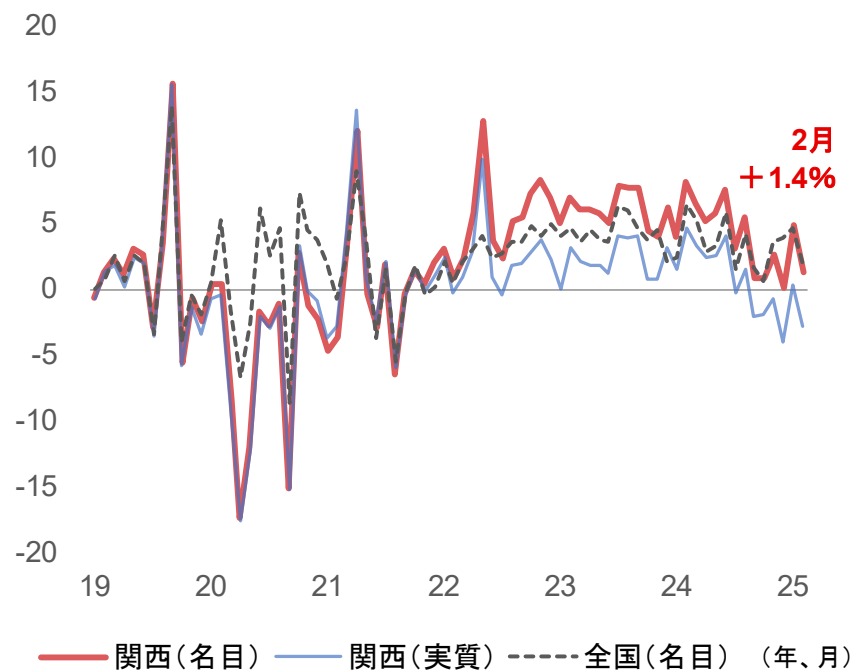
個人消費(小売売上、自動車販売)

2月の小売販売額(名目)は、前年比+1.4%と21年10月以降増加が続いている。実質値は前年比-2.8%2ヵ月ぶりにマイナスとなった。

2月の新車販売は、認証不正により前年が低水準であった反動もあって、前年比+16.9%と大幅増となった。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

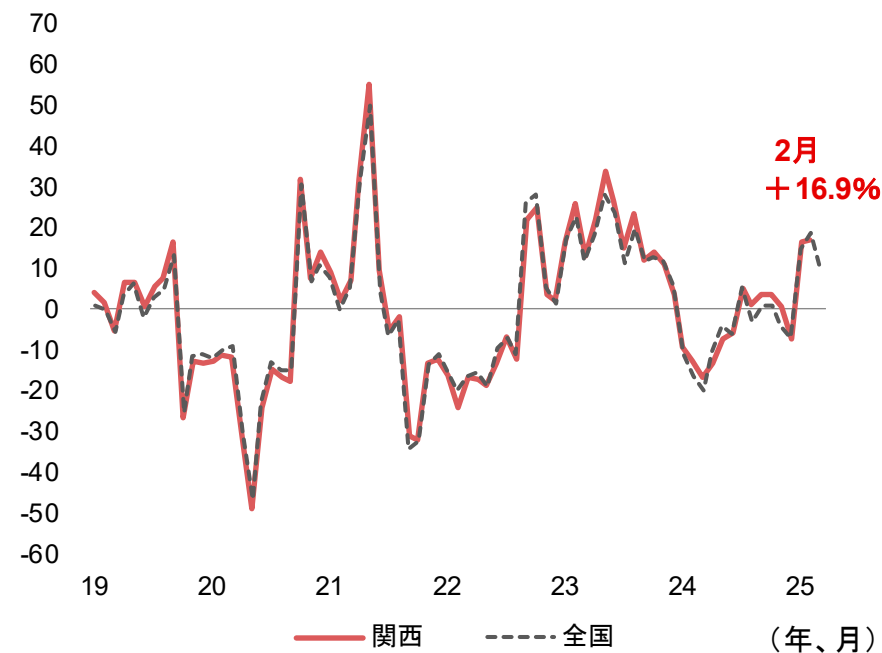


(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

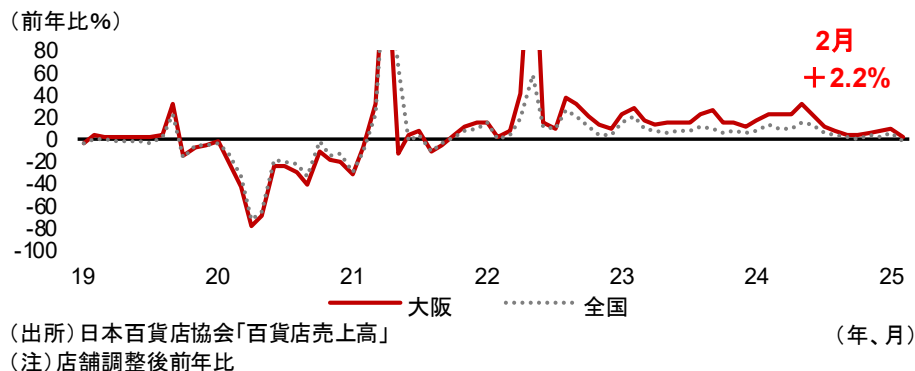


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

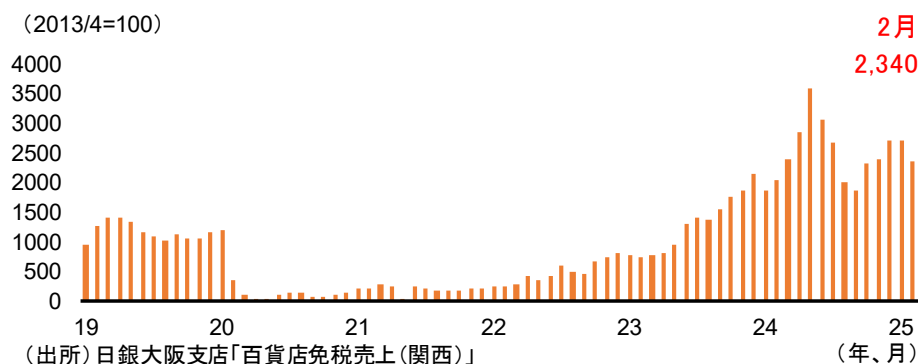
個人消費(業態別)

2月の百貨店売上(大阪)は、前年比+2.2%と41ヵ月連続でプラスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は前年比+13.9%増の2,340となった。昨年2月がうるう年で営業日数が減少したこともあり、前年比の伸び率は縮小した。

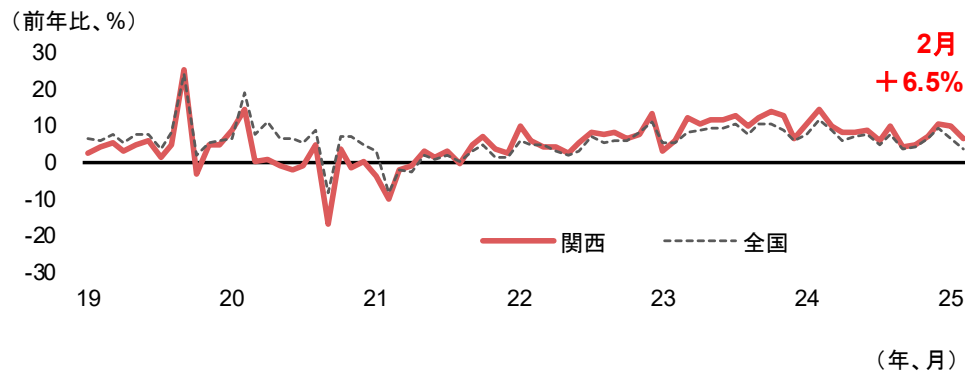
百貨店売上高



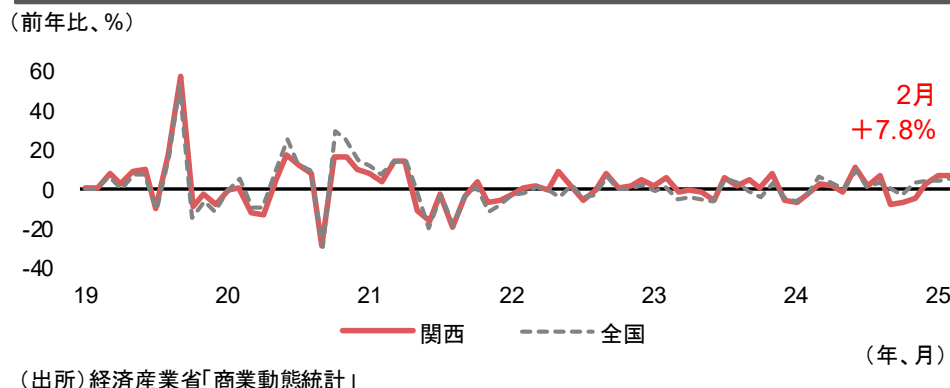
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

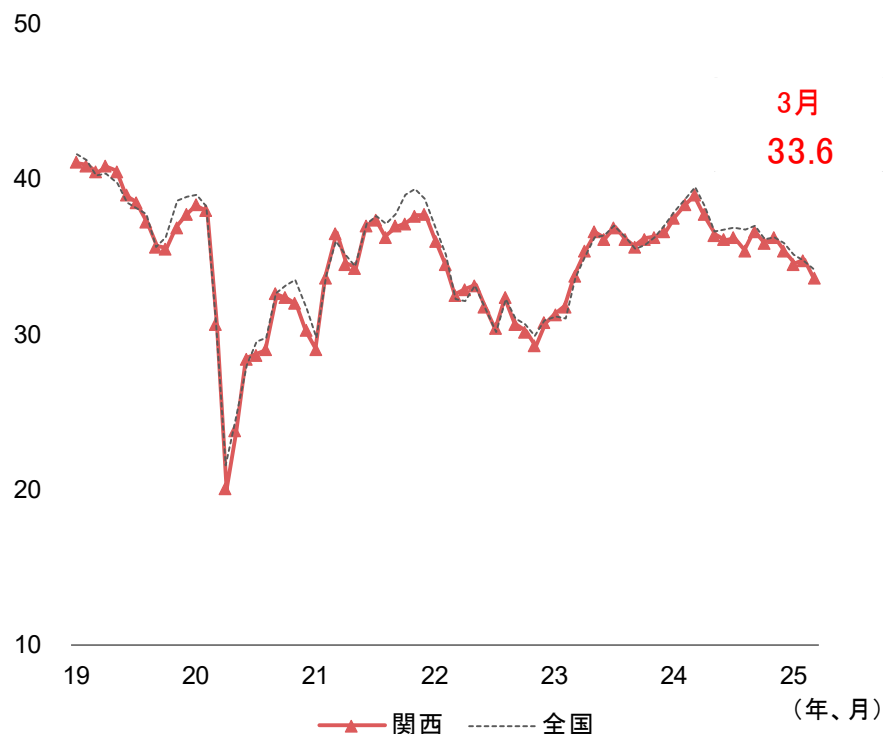


マインド・景況感

3月の消費者態度指数(季節調整値)は33.6と小幅ながら2カ月ぶりに低下した。

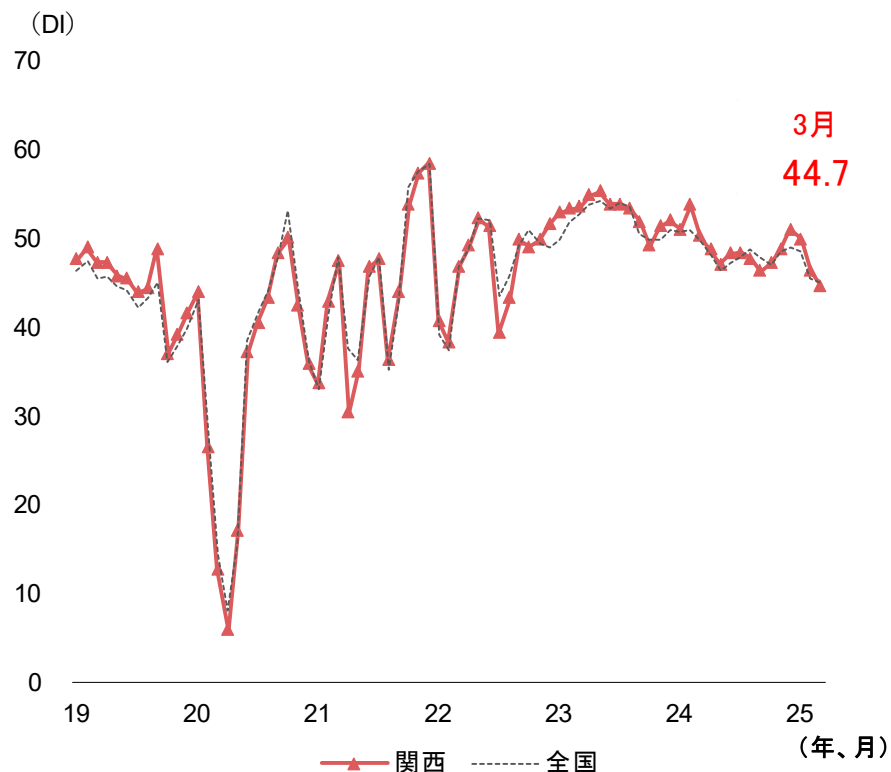
3月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差1.7pt低下の44.7となった。物価高による支出控えが景況感を引き下げた。インバウンドは好調という声が多い一方、減少を指摘する声も散見される。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

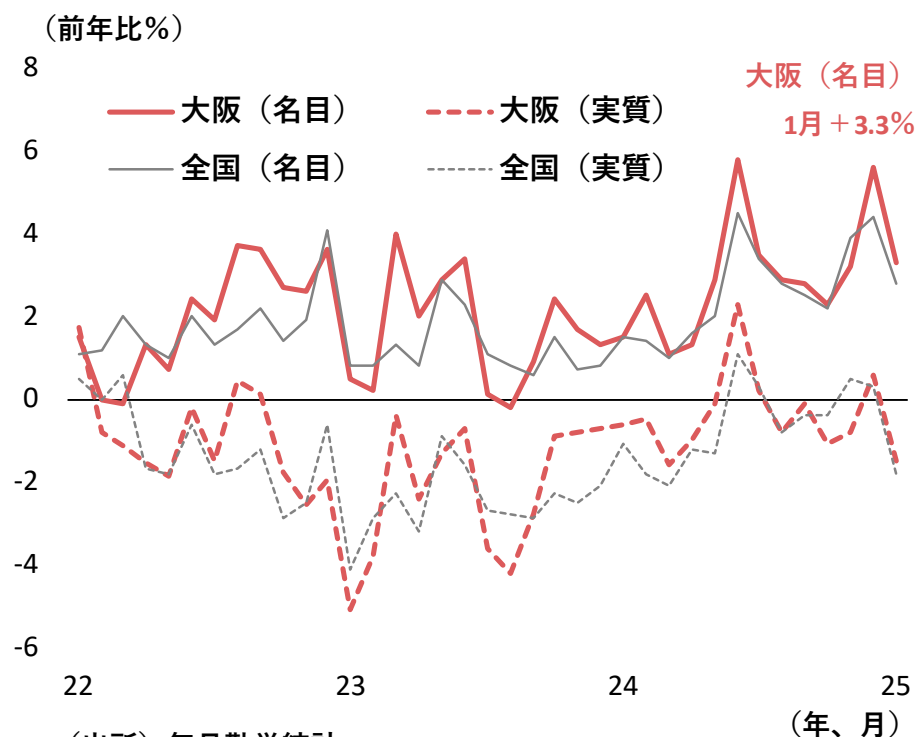
賃金・雇用

1月の大阪の賃金指数は、名目で前年比+3.3%と前年比プラスが続いているが、実質では同-1.5%と2カ月ぶりにマイナスとなった(12月はボーナスの伸びが寄与し実質でプラスとなった)。

2月の関西の有効求人倍率は1.14倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

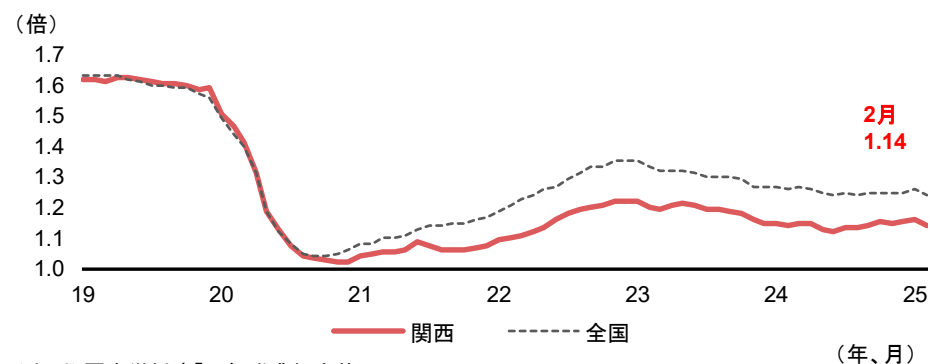
24年10-12月期の失業率は2.8%と前期から小幅上昇、就業者数は減少した。

名目賃金指数



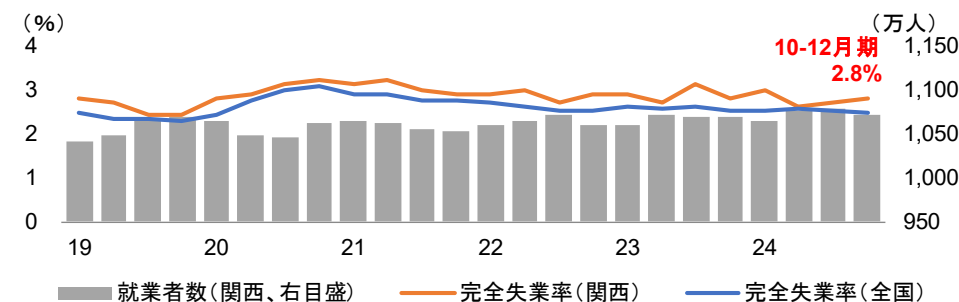
(出所) 毎月勤労統計

有効求人倍率(季節調整値)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

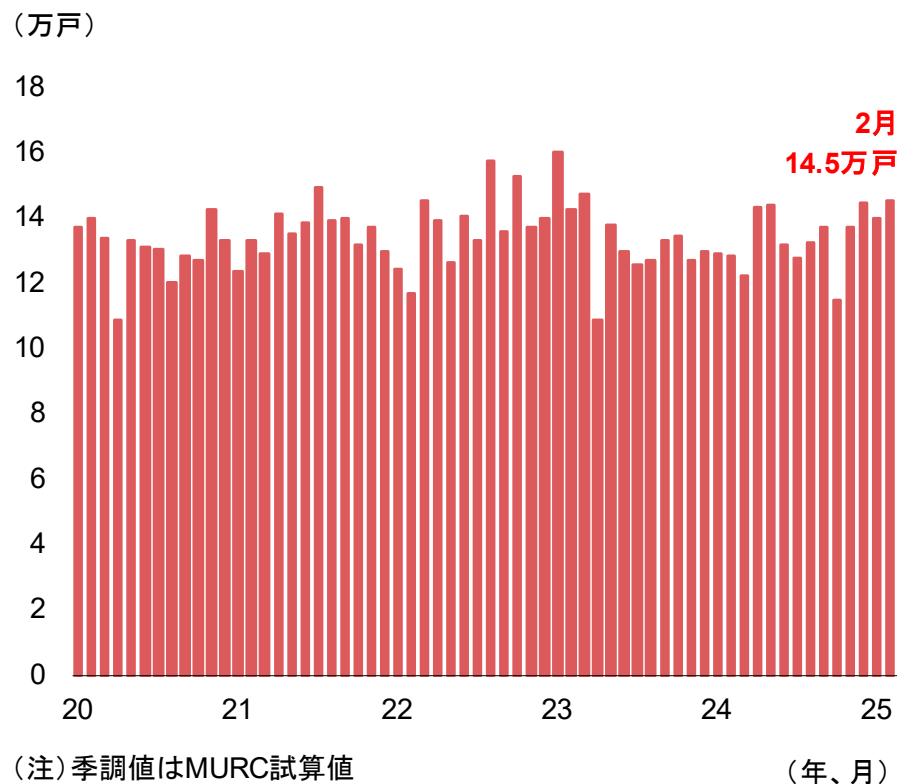


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

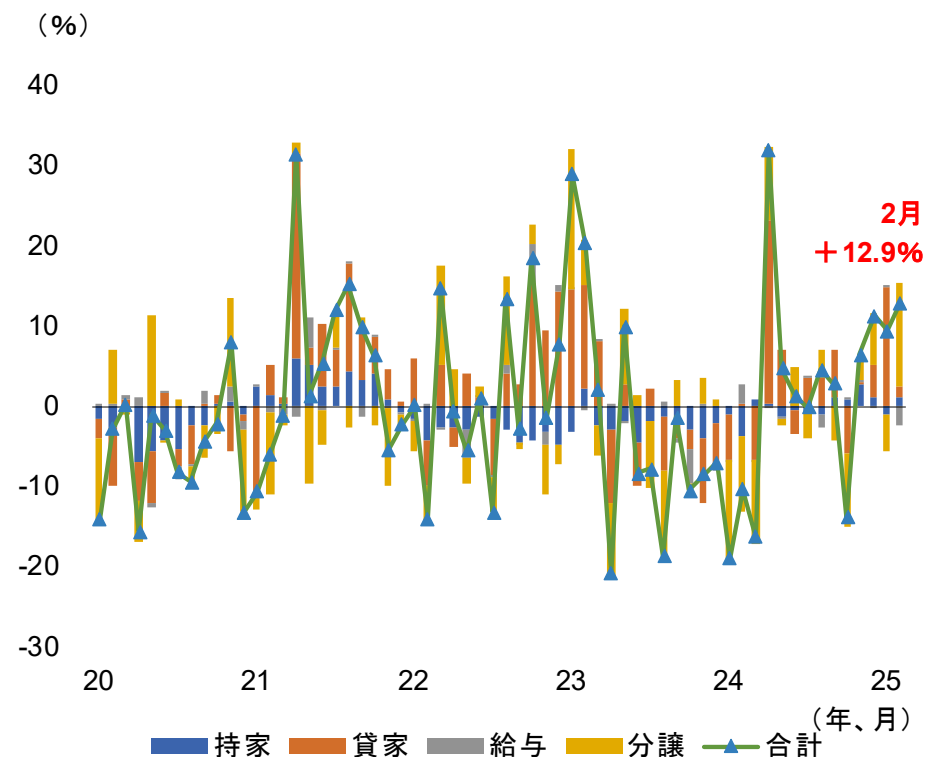
2月の住宅着工は、季調・年率14.5万戸と2ヵ月ぶりに前月比で増加した。前年比では、持家、貸家、分譲が増加し、全体で+12.9%と4ヵ月連続で増加した。関西の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

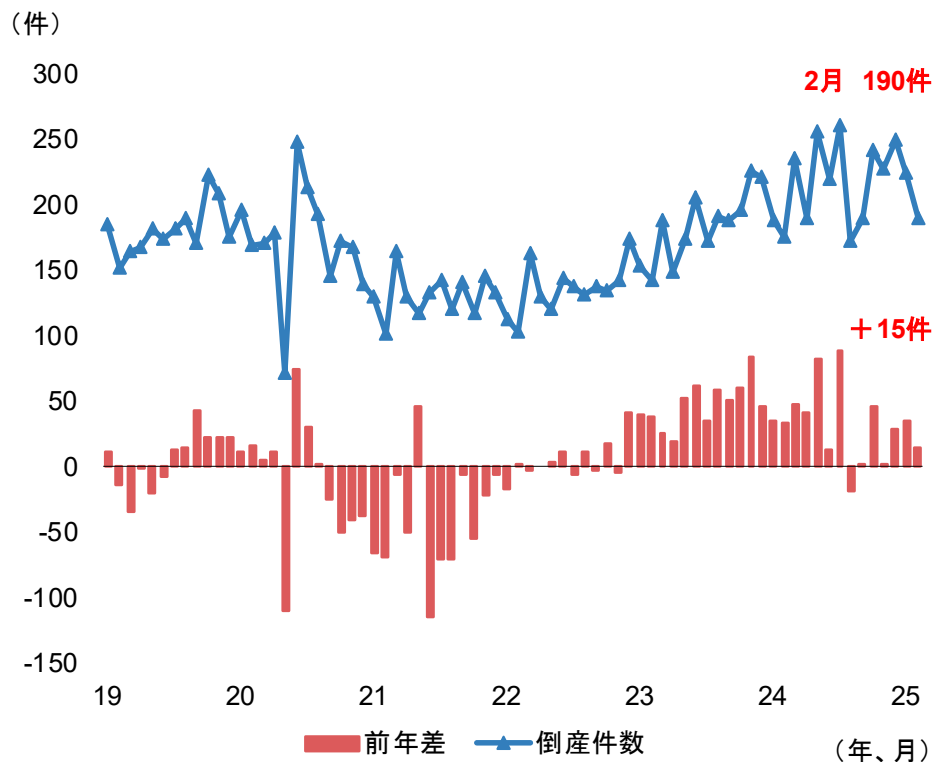


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

2月の倒産件数は190件と前年から15件増加。コロナ前と同程度の水準となっている。

倒産件数

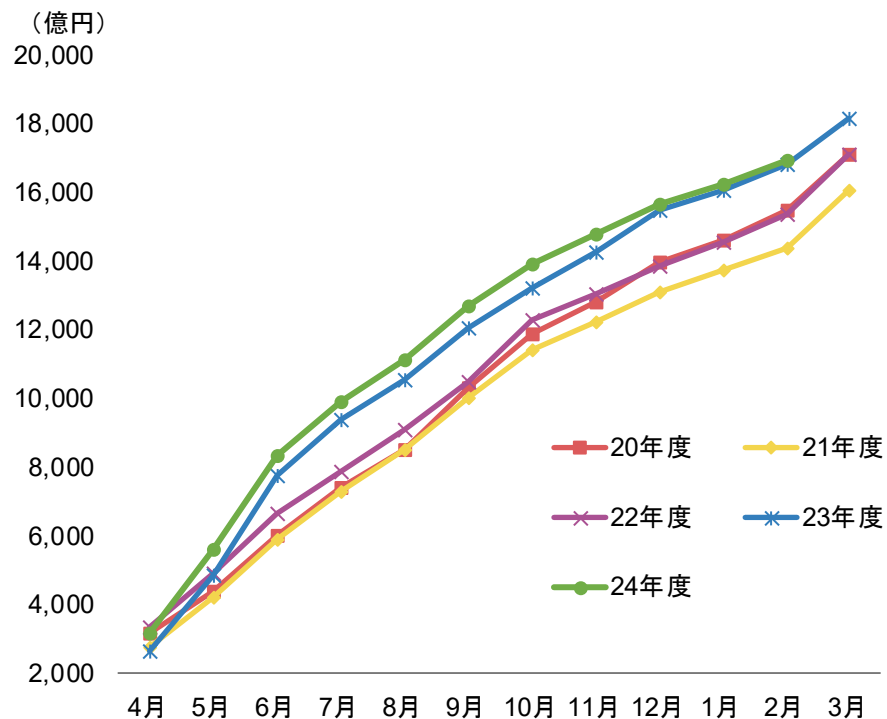


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

2月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+0.6%の1兆6,962億円と高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー